

2020年度



事務局

〒560-0043 豊中市待兼山町1-6
大阪大学大学院法学研究科内
TEL&FAX.06-6850-5198
E-mail ishibashi@seiunkai.net
https://www.seiunkai.net/



青雲会ホームページ

2020年4月27日

編集・発行

青雲会(大阪大学法学部同窓会)

会長 片岡 和行

青雲会 会報

印刷 株式会社 絆コーポレーション

2020年度 青雲会総会のご案内

●講演会のテーマ

おか
『陸に上がった日立造船』

ふるかわ みのる
講師 古川 実氏

日立造船(株)相談役、大阪商工会議所副会頭

●日時

2020年7月18日(土)

午前10:30開会

10:30-11:15 総会
11:20-12:20 講演会
12:30-14:30 懇親会

※状況によっては延期の可能性もございます。延期の場合はホームページでお知らせいたします。

●会費

一般 **9,000円**

周年記念:7,000円、卒業後5年以内:3,000円、
学生(未入会):2,000円、学生(入会済):1,000円

(注)◎周年記念:10年:58期、20年:48期、30年:38期、40年:28期、
50年:18期、60年:8期の会員です。

◎卒業後5年以内:2016年3月~2020年3月卒業の会員です。
ご出席の方は、会費の前納をもって申込みとさせていただきます。
同封の郵便振替用紙をご利用ください。(青雲会ホームページ会員専用サイトでクレジットカード払いもご利用いただけます。)

■払込み期限 6月26日(金) [必着]

●会場

太閤園 ダイヤモンドホール
〒534-0026 大阪市都島区網島町9-10
TEL 06-6356-1110 (代表)

JR東西線大阪城北詰駅(3号出入口)より徒歩1分
京阪京橋駅(片町口)より徒歩7分
地下鉄長堀鶴見緑地線京橋駅(2番出口)より徒歩5分

●講師



ふるかわ みのる
日立造船(株)相談役、
大阪商工会議所副会頭 古川 実氏

【生年月日】昭和18年6月13日 【出身地】大阪府

【学歴】昭和41年3月 大阪大学 経済学部卒

【職歴】

- 昭和41年 4月 日立造船株式会社入社
- 51年 11月 HITACHI ZOSEN ROBIN DOCKYARD(PTE.)LTD.出向
- 55年 9月 HITACHI ZOSEN ENGINEERING SINGAPORE(PTE.)LTD.出向
- 59年 7月 東京支社 経理部
- 平成10年 6月 取締役 経理部長
- 13年 6月 代表取締役 専務取締役 業務管理統轄
- 17年 4月 代表取締役 取締役社長
- 22年 6月 代表取締役 取締役会長兼社長
- 25年 4月 代表取締役 取締役会長兼CEO
- 28年 4月 代表取締役 取締役会長
- 29年 4月 取締役相談役
- 29年 6月 相談役 <現在に至る>

【団体歴・公職歴】

- 平成26年 5月 (一社)日本機械工業連合会 理事・副会長
- 27年 5月 (公社)関西経済連合会 理事・地球環境・エネルギー委員会委員長
- 22年 7月 大阪商工会議所 副会頭
- 23年 5月 (一社)日本環境衛生施設工業会 理事・会長
- 26年 5月 (公社)大阪府工業協会 副会長



I 青雲会会長 ご挨拶

日頃は青雲会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。昨年、会長就任のご挨拶で青雲会として取り組むべき課題について三点を掲げました。この1年の取り組みと今後の課題について申し述べさせていただきます。

第一に「組織の強化」です。昨年度は副会長を4名増員し、各期の幹事体制についても強化を図り、幹事会の活性化や会員の拡充に努めました。お陰様で新入会者は6年振りに前年比増加し、会費納入率もやや改善しました。しかしながら、財政状況は依然厳しく更なる収入の増加を図る必要があります。この数年間の財政健全化策は、主に支出の削減を中心に進めてまいりましたが、これ以上の事業の縮小は難しい状況です。そこで今年度から現在の入会金と年会費に加え、任意の運営賛助金を制度として取り入れることを幹事会で決定いたしました。

会員の皆様には是非趣旨をご理解いただき、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

第二に「新たな交流の場の創設と促進」です。文系他学部同窓会との交流・連携については、今年度は青雲会が幹事となり、幹事合同懇談会を開催いたします。また7月18日開催予定の青雲会総会の講演会の講師には、昨年3月迄経済学部の同窓会長を務められた、日立造船の古川実相談役をお迎えする予定です。今後は会員相互の交流の場を設けるなど、会員レベルでの絆を拓く機会の拡充に努めてまいります。

第三に「人材育成支援」です。青雲懸賞論文や青雲キャリア支援基金を活用した法学部在学生の研鑽や社会進出支援にも引き続き注力してまいります。

ところで、私は昨年の5月3日に豊中キャンパスで開催された、第14回大阪大学ホームカミングデイに参加しました。西尾総長が今一番注力されていることは産学連携を産学共創に進化させ、社会の多様な担い手と協働しながら、新たな知の創造とイノベーションを起こすことだそうです。

地域の中核大学であり、社会との共創を通じ知を創出し、社会の持続的成長のためのイノベーションに貢献する大学を目指す母校に大いに期待しています。卒業生として、皆様と共に出来る限り応援していきたいと思っております。

最後に、今後とも青雲会の活動に皆様のより一層のご理解とご支援をお願いいたします。来る7月18日の青雲会総会に多数ご参加賜りますようお願い申し上げます。



会長 片岡 和行 (24期)

I 青雲会名誉会長 ご挨拶



大阪大学大学院法学研究科長
大阪大学法学部長
中山 竜一

法学部長・法学研究科長を拝命し、この春で2年目となります。青雲会の皆さまにはいつも学生諸君への暖かいご支援をいただき、心より感謝しております。

さて、この原稿を執筆している現在、新型コロナウイルスの感染拡大が全地球的な問題となっております。本学法学部では3月初旬、新進気鋭の若手教員を中心とする第2回日の「AIと法」シンポジウムを、グランフロント大阪を会場に大々的に開催する運びとなっていましたが、残念ながら延期のやむなきに至りました。そればかりか、卒業式・入学式、さらには青雲会主催で同日に行われる卒業記念パーティー、そして法学会の新生歓迎会まで断念することとなりました。まさに大学にとっては、1960年代末の大学紛争以来の異常事態であると言わざるをえません。

感染拡大阻止をめぐるわが国の統治の現状を目の当たりにして、考えることがあります。そもそも近代日本にあって法学部に求められてきたことの一つは、社会の各セクターで活躍する、法学的=政治学的な素養を備えたジェネラリストの養成でした。つまり、ひとたび求められれば、社会の要所要所で「リーダー」として賢明な決定=決断を行う、あるいは「サブ」としてリーダーを支える際にも単なるイエスマンとはならず、自立した助言を行うことのできる、そうした人材を育成することです。しかし、それは今日ますます難しくなっているようにも思われます。

「例外状況にかんする決定=決断」が専門家の助言を度外視した無責任なものであってはならないことは無論ですが、その一方で、予見不可能なリスク、ないし不確実性が支配する「リスク社会」の時代においては、専門家たちの見解が必ずしも一枚岩でないことも事実です。だからこそ、社会の様々な分野でリーダー的役割を担ってこられた青雲会会員の皆さまの数々の経験が、ジェネラリスト養成の現場で、これまで以上に重要な意味を持つものと思われれます。諸先輩方の貴重な経験と賢慮を後輩たちに伝えていただけるような、そうした新たな教育枠組を準備することが、あと1年間の任期中の私の課題であると考えております。引き続き、ご支援とお力添えをよろしくお願い申し上げます。

I 国際公共政策学科長 ご挨拶

2020年4月から、大学院国際公共政策研究科長および法学部公共政策学科長を務めることになりました。青雲会の皆様へのご挨拶は初めてとなりますが、いつもご支援をいただき、誠にありがとうございます。

国際公共政策学科は、2008年4月に開設され、2020年度の学生で、12期生となります。まだまだ若い学科です。法学科とともに、日本の社会に貢献できる人材の養成を目指して、頑張っております。国際公共政策学科では、学生に対し、グローバルな視点から社会問題を捉え、その解決のための政策設計について、法学、政治学、経済学の各分野を融合する形で考える機会を与えるため、全教員が最新の国際動向を踏まえた教育を行っております。

法学部では、学部での教育をさらに深める形で大学院教育を受けられる仕組みとして、早期卒業制度を取り入れており、2020年4月に初めて、早期卒業で、国際公共政策学科から大学院国際公共政策研究科に入学する学生が誕生します。3年間の学部教育と2年間の大学院教育を通じて、学部での学びに加え研究能力も兼ね備えた人材の養成を目指しております。

また、4年生の間に大学院の授業を履修することで、大学院を1年で卒業できる制度も取り入れており、多様な学びが可能となっています。今後引き続き、激動する社会ニーズに合った教育を取り入れていくためにも、青雲会の皆様からのご意見とご支援が不可欠です。今後も努力してまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



国際公共政策学科長
赤井 伸郎

I 高等司法研究科長 ご挨拶



高等司法研究科長
水谷 規男 (32期)

研究科長に就任して1年が過ぎました。この1年は下村真美前研究科長の残任期間で、不祥事への対応などで右往左往するうちに過ぎてしまいましたが、2020年4月から2年間の任期で引き続き研究科長を務めることになりました。よろしくお願い致します。

法科大学院制度がスタートしてから、この春で16年になります。高等司法研究科の修了生は今年の修了生を加えて1100人を超え、司法試験の合格者も昨年までの累計で696人になりました。修了生たちは、法曹界だけでなく、社会の多様な分野で活躍しています。

しかし、法科大学院をめぐる状況は、いまだ安定してはいません。今年から法学部の優秀な学生に早期卒業を認めて法科大学院に導く「法曹コース」がスタートします。この制度と連動して、2023年から法科大学院在学中の司法試験受験が認められることになりました。この新しい制度を利用して、法学部に入学してから高等司法研究科を修了するまでを豊中キャンパスに腰を据えて勉強する学生が増えることを期待しているところです。

制度は未だ不安定ですが、社会に質の高い法曹を輩出するという法科大学院としての使命は変わりません。私たち教員も努力を重ねていきますが、今後とも諸先輩方の激励、支援を賜りますようお願いいたします。

大阪大学法曹会

大阪大学法曹会は、阪大卒の司法試験合格者と大学教員による高等司法研究科学生に対する支援団体です。

2019年の司法試験は、全体としては受験者数・合格者数ともに新試験制度始まって以来、最少となりました。

その中で阪大は受験学生の努力、若手法曹会会員の支援等で46名の合格者を出し、合格率全国7位の成績をキープいたしました。

現在、高等司法研究科後援基金を通じ、下記の支援を行っております。

1. 法律文書錬成講座

若手司法試験合格者による法律文書の書き方指導

2. 修了生勉強会

未合格卒業生に対するグループ指導

3. 必要資金の援助

4. 合格者に対する就活懇談



合格祝賀会風景



就活懇談会風景

2019年度 総会報告

日時 2019年7月20日(土) 10時30分開会
場所 太閤園 ゴールデンホール
講演 テーマ「AI、ロボットと法律について」
講師 弁護士 小林 正啓 氏

2019年度の青雲会総会は、ご来賓の池田辰夫名誉教授、平田健治名誉教授、三成賢次副学長、中山竜一法学部長、松野明久国際公共政策学科長、水谷規男高等司法研究科長ほか多数現職教員の先生がたのご臨席のもと、総数82名の皆様のご出席をいただき、盛会裡のうちに終了しました。

1 総会議事 (10:30-11:15)

はじめに片岡和行新会長から挨拶があり、青雲会の重点課題やそれに取り組む4つのプロジェクトチームについての説明がありました。来賓祝辞では、中山竜一名誉会長より法学部の現状をお話いただき、昨年開催して好評を博したAIと法に関するシンポジウムの2020年2月開催を検討しているとの説明がありました。引き続き片岡会長より2018年度会務会計報告がなされ、西尾事務局長から2018年度会計監査報告があり、いずれも承認を得ました。次に2019年度事業計画案および予算案が提出されいずれも承認を得ました。続いて新幹事5名の紹介があり、最後に学内幹事の松本和彦先生から大学の現状についての報告がありました。

2 講演 (11:20-12:20)

弁護士の小林正啓氏より「AI、ロボットと法律について」と題してご講演をいただきました。「アンドロイドの法律問題」「自動運転自動車の事故と責任」「AIは人間から仕事を奪うか?」「AIによる未来予測」「なぜ法律がAIやロボットに関わるのか?」といったタイムリーなテーマについて、わかりやすく問題点を解きほぐしながらお話いただきました。大学で法律を学んだ私たちとしては小林先生のお話には大いに考えさせられ、大学の法学部の役割がますます大きくなっているのだということを再認識した、あっという間の60分でした。

3 懇親パーティー (12:30-14:30)

第1部・第2部に続いて、懇親パーティーも菅聡一郎副会長(40期)が司会を担当。講演講師の小林先生にもご出席いただきました。三成賢次副学長(28期)の乾杯の音頭でパーティーが始まりました。最初に現役学生の皆さんを中心に若手の参加者9名が登壇し、一言ずつ挨拶をいただきました。若いエネルギーに圧倒される思いでした。次いで、東京支部長西畑一哉氏(27期)及び名古屋支部長中嶋利幸氏(19期)からそれぞれ両支部の活動報告が行われました。その後、2018年度の青雲懸賞論文受賞者紹介が行われ、出席いただいた4名の皆さんから、受賞のご挨拶をいただきました。また、周年記念会員のうち4名にご登壇願ひ、それぞれ周年を迎えてのご挨拶をいただきました。後半は、「地名・駅名BINGO」ゲームで、様々な景品を目指して盛り上がったあと、盛会のうちに、山本茂伸副会長(22期)による中締めとなり、吉例の大阪締めを披露してお開きとなりました。本年度も多数の会員の皆様のご参加をお待ちしています。



講演 小林 正啓 氏



現役学生の皆さん



懇親パーティー

青雲キャリア支援基金事業

学生支援室長 福井 康太

2019年度 法学部生のためのキャリア形成支援講演会

本年度は、青雲キャリア支援基金活用事業「法学部生のためのキャリア形成支援講演会」を2回開催しました。まず、4月18日に講演会『データから見る弁護士の就職マーケットとキャリアデザイナー』（講師：大久保翔太氏（株式会社ジュリスティックス／ジュリナビ運営事務局））を開催し、4月24日に、講演会「カルトによる被害と被害防止について」（講師：山口貴士 弁護士（東京弁護士会／カリフォルニア州弁護士会・リンク総合法律事務所））を開催しました。いずれも学生生活とキャリア形成に関わる充実した内容の講演会でした。



キャリア形成支援講演会（2019年4月24日開催）の様子

青雲キャリア支援基金キャリアチャレンジ賞

青雲キャリア支援基金活用事業として、2017年度から、「青雲キャリアチャレンジ賞」を設けています。「青雲キャリアチャレンジ賞」は、在学中に課外で取り組み、キャリア形成に向けて優れた成果を挙げた法学部生を表彰し、副賞を授与して、その成果を称えるとともに、在学中のキャリア形成活動を促進することを狙ったものです。2019年度には2名の学生（藤崎航太郎氏・井上忠大氏）が受賞しました。青雲キャリアチャレンジ賞が、今後、優れたキャリア形成活動の励みになるものとして広く認知されるよう、努めて参ります。



キャリアデザイン・データベース

学生支援室は、学生のキャリア形成支援、修学環境の整備を目的とした組織として、様々な事業に取り組んでいますが、キャリアデザイン・データベースの構築は主要な事業のひとつです。今年も『皆さんのキャリアデザインのために～先輩方の活動体験記』を刊行しています。この小冊子には、就職活動・進学準備等の体験記と後輩へのメッセージを綴ったレポートの一部が収録されています。他のレポートや昨年度までのレポートは、学内のウェブサイトですべて閲覧できるようになっています。この小冊子の印刷費用とレポート作成者に対する謝礼（1000円の図書カード）は、2016年度より青雲キャリア支援基金によって支えられています。



「皆さんのキャリアデザインのために
～先輩方の活動体験記」



“青雲塾”は会員のオアシス!

青雲塾担当 松井 繁幸 (23期)
西尾 公一 (25期)

昨年度の開催内容は次のとおりです。場所は柏原を除いて大阪大学中之島センター。各回の詳細と過去の実績、
次回の案内もホームページをご覧ください。 <https://www.seiunkai.net/kouryu/seiunjuku/>

第64回 ▶ 2019年 6月22日(土)

「大阪大学の現状と課題—国立大学の改革と評価をめぐって—」

三成 賢次 先生(青雲会28期 1980年卒業)
大阪大学 大学経営総括理事・副学長(計画評価、施設、広報担当)

今回は、ご専門の近代ドイツ法史関連から離れ、副学長のお立場から、大阪大学の経営全般をテーマにお話しいただきました。前日、発表された政府の「骨太の方針」に明記してある大学改革など、新聞やTVなど一般メディアではなかなか取り上げられないテーマが大阪大学に深刻な影響があるなど、大学行政に縁のない者にとっては、意外な話の連続でした。開催後、三成先生から「先輩方 앞에서緊張しましたが、大阪大学が現在置かれている状況について、皆様に少しでもお伝えすることができましたら幸いです。」とのメッセージをいただきました。



国立大学改革の動きを説明される三成先生

第65回 ▶ 2019年 9月14日(土)

「カタシモワイナリーの見学と柏原まち歩きの小さな旅」

(1) **カタシモワイナリーの見学会** ◇案内者:カタシモワインフード(株) 高井 利洋 社長
★ぶどうのテイスティング/特製ランチボックス/ワインテイスティング付き

6月のG20大阪サミットで7アイテムが採用されたカタシモワイナリー。しかし、政府からは直前まで決定の連絡はなく、通常の保健所の検査が異常に厳しかったとのこと。いきなり大量の注文が舞い込んでのてんやわんやなど、舞台裏の事情も興味深く聞きました。また、先代から家業を継ぐことの覚悟、責任感など含蓄のあるお話と受け止めました。



実験葡萄園 高井社長の解説で参加者は一粒づつ自分の舌で味わい、違いを体感

(2) **ブラッ&柏原まち歩きツアー** ◇案内者:柏原まち歩きマイスター 梶谷 政則 氏

結構なご縁をいただいた梶谷氏がボランティアで古代から大和と難波(なにわ)の中間点に位置することから歴史遺産が多数存在する柏原の街を案内していただきました。



周辺には「業平道」など、歴史にゆかりの物語が豊富

第66回 ▶ 2019年 12月7日(土)

「宇宙政策を考える—日本は宇宙先進国でありたいのか?—」

渡邊 浩崇 先生(青雲会46期 1998年卒業)
大阪大学COデザインセンター 特任准教授・博士(法学)/大学院法学研究科 招へい教員

「日本は宇宙先進国でありたいのか?現在、日本はこの問いに改めて答えるべき時を迎えています。世界では、既存の宇宙関連企業に加えて、新興企業が宇宙の研究開発利用において大きな役割を果たす中、日本は米国が構想する月近傍有人拠点や国際協力による月着陸探査活動に積極的に参加しようとしています。宇宙政策とは何か?日本の宇宙政策は現在どのような状況なのか?今から50年前に人類初の有人月面着陸を実現した「アポロ計画」とは?そして宇宙政策の意義や論点について、皆様と一緒に考えてみたいと思います。」(渡邊講師)



「宇宙政策」研究の最新の成果を語る渡邊先生

第67回 ▶ 2020年 2月15日(土)

「森本薫と文学座」

大阪大学 演劇学研究室 永田 靖 先生
教授/専門 演劇学

特別ゲスト 森本年(みのる)氏(劇作家・森本薫のご長男)
★2008年12月、森本薫の遺品や資料を大阪大学に寄贈されました。

「森本薫は日本演劇になくはならない存在でした。文学座との関係についてお話をさせて頂ければと存じます。」(永田講師)「森本薫と文学座」というテーマで講演して頂けることは、息子として光栄かつありがたく存じます。永田先生とも久しぶりにお目に掛かれて、楽しい時間を過ごさせて頂きました。」(森本氏)

今年秋、9月から11月にかけて文学座と松竹が舞台「女の一生」を競演します。今年は森本薫に新たにスポットライトがあてられる年。



今年10月、松竹の舞台 森本薫の代表作「女の一生」 京都・南座で



茶話会にはいって空気がなごむ 森本氏(左)と永田先生

東京支部だより

東京支部長 西畑 一哉 (27期)



● 東京支部 連絡先

〒102-8336
東京都千代田区三番町6番地16
二松学舎大学
TEL 03-3261-1298
FAX 03-3261-1291

青雲会(大阪大学法学部同窓会)東京支部長の西畑一哉です。1979年3月に法学部を卒業、日本銀行を経て、2015年9月から東京九段にある二松学舎大学に籍を置いております。

最近の青雲会東京支部の活動について報告いたします。

昨年5月23日には、東京待兼会春季懇話会(青雲会東京支部共催)が開催され、待兼会の西本麗会長から「食料増産の重要性と農薬のイノベーション」のお話をうかがいました。世界の食料生産拡大のためにこの100年間農薬の進歩が果たして来た役割、国際的な飢餓を救ってきた要因の一つが農薬だったということが良く理解できました。

昨年11月30日には、二松学舎大学に於いて青雲会東京支部総会を開催し、総会後の講演会(東京待兼会共催)では、「為替との格闘~当局としてFX業者として~」との演題で、セントラル短資FX社長の松田邦夫氏にご講演をいただきました。松田氏は、日本銀行でフランクフルト事務所長等の海外ポストを歴任され、私にとっては法学部におけるゼミや職場も同じくさせていただいたことのある畏友です。現在は日本銀行を退任されFX会社を経営されておりますが、BIS(スイスパーゼルの国際決済銀行・中央銀行間の調整をする組織です)での裏話や、マーケット調整の難しさなど、興味深いお話がうかがえました。

さて、抜本改正が行われた、国公立大学・私立大学関係の法律が今年4月から施行されました。私立大学関係では、理事等役員の責任が重くなるなどガバナンスの強化が図られたほか、経営困難になった大学の処理方法も追加されています。理事等役員に対する

損害賠償条項も明記されたので、一斉に学校法人役員損害賠償保険(株式会社の株主代表訴訟対応保険に近いもの)に加入しようとしているところですが、国公立大学でも「持株会社」方式に近い形での経営統合方式が導入され、母校の地元大阪でも、大阪市立大学と大阪府立大学が2022年に経営統合することが公表されており、母校の強力なライバルが出現することになるかもしれません。正に大学は激動の時代を迎えていると言えるでしょう。

足下、新型コロナウイルス蔓延の影響が世界全体に及んでいます。私共の学校法人でも附属高校が3月初めから休校状態になっている他、大学についても何時から新年度の授業が開始できるか不分明な状態です。世界全体として未曾有の危機を迎えていると言っても過言ではないでしょう。今後については見通せない状態にありますが、「誰もが何らかの形で被害者になっており」「誰もが加害者になる可能性がある」状態が暫く続くことになりそうです。そういう時だからこそなおのこと、「周囲への思いやり=連帯」の精神を維持することこそが最も重要だと思います。皆様のご健勝を心から祈っております。

名古屋支部だより

名古屋支部長 中嶋 利幸 (19期)



名古屋地区では東海地方に在住の卒業生を対象として、経済学部同窓会と合同で『名古屋待兼会』を運営しており、その歴史は60年ほど前までに遡ります。現在の会の主な活動は2,4,6,9月の例会と11月の総会です。

例会は、名古屋市内のホテルで行っており、約2時間半の会で、毎回、20~30人の参加者で運営しています。まず会のはじめに会員が持ち回りで30分ショートスピーチを行っており、昨年の例会では、『リサーチの変容』、『トルコについて少々』、『小野道風と京都』といったテーマで歴史、地理、マーケティングまで幅広い演題が提供されました。そしてスピーチの後には約2時間、食事とお酒を楽しみながら、出席会員の近況報告や懇談などで会員同士の交流を深めるというのが例会の内容です。

そして昨年の11月の総会には、大阪大学大学院法学研究科長・法学部長の中山教授にご出席賜り、母校の近況や『リスク社会における法学教育』と題したご講話を頂きました。

近年、東海地区の企業の躍進ぶりは目を見張るものがあり、それに伴い、大阪大学卒業後、東海地区に就職する方や、関西や首都圏から転勤で来られる方が増えており、名古屋周辺に在住される阪大卒業生の方が以前に比べて大きく増加しているようです。しかし、残念ながらその増加率ほどは、名古屋待兼会の会員数が伸びていないという状況下、新しく来られた方に入会されるようお誘いをしていきたいと思っていますので、すでに東海地区にお住まいの方で入会を希望される方、近い将来、東海地区に転入を予定されている方は是非、以下の連絡先にコンタクト頂きますようお願いいたします。

● 名古屋支部 連絡先 〒466-0812 名古屋市昭和区八事富士見1304 中嶋 利幸 TEL&FAX 052-834-0607 メール tosrom314@re.commufa.jp



若手交流会報告

青雲会 副会長 嶋津 裕介 (45期)

令和2年2月20日(木)午後7時より、大阪大学中之島センター講義室302にて、地神亮佑・大阪大学大学院法学研究科・附属法政実務連携センター准教授(平成22年法学部卒。58期幹事)による講演会「働き方改革と『労働法』」を開催しました。

働き方改革関連法の成立を受け、「労働時間法制とは何なのか」、「均衡待遇とは何なのか」を改めて振り返ってみようとの講演でした。正社員と非正規社員の二分法ではなく、その間の「グラデーション」としての働き方が政策として促されているとのお話を聞き、質疑も活発になされ、大いに考えが深まりました。

懇親会には地神准教授、先輩会員にも加わっていただき、交流を深めることができました。



講師の地神 亮佑 先生



懇親会に参加のみなさん

🌹 2019年度 青雲懸賞論文受賞者 🌹

2019年度の青雲懸賞論文は、多数の応募の中から以下の4本が優秀論文として選ばれました。各受賞論文は青雲会ホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。



【1席】藤崎 航太郎さん



【2席】武本 麻未さん
後藤 慶祐さん



【佳作】吉原 諒さん



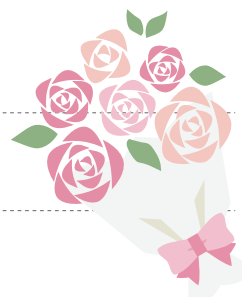
【新人賞】井加田 透さん

1席 藤崎 航太郎(国際公共政策学科4年)
「外国人材の受入れが受入国労働市場の賃金水準に与える影響：台湾における就業サービス法施行を自然実験として」

2席 後藤 慶祐(国際公共政策学科4年)
武本 麻未(国際公共政策学科2年)
「日本のホテル産業は本当に「民泊解禁」の影響を受けたのか」

佳作 吉原 諒(法学科3年)
「政治的教養を育む授業の効能～主権者教育は投票行動にどこまで影響を及ぼすか～」

新人賞 井加田 透(法学科1年)
「国家緊急権の議論に向けた各国憲法の比較評価」



＊ 吉本健一先生ご退職記念パーティ開催 ＊



2019年11月30日(土)、ホテル阪急レスパピア大阪で吉本健一先生のご退職記念パーティが開催されました。吉本先生は2012年に大阪大学退官後、神戸学院大学で教えていらっしゃいましたが昨年3月に退官。パーティ当日は、1988年以降、吉本ゼミに在籍した卒業生44人が出席し、吉本先生のご退職をお祝いました。

パーティでは“吉本先生の軌跡”というテーマのもと、幼少期からのお写真をスライドショーで投影。また、テーブル対抗クイズ大会では「吉本先生が高校時代、インターハ

イに出場した種目は?(答え→ヨット)」など、先生の知られざる一面に会場からは驚きの声。ご息女の和香子様に関するクイズではサプライズでご本人が登場されるなど、大いに盛り上がりました。卒業生代表の挨拶では、海外在住のゼミ1期生(ビデオレターで)と、吉本先生に一目惚れ(!)して門をたたいた留学生から、先生のお人柄がよく分かるエピソードが披露され、また、奥様の香代子様からは、愛と感謝とユーモアにあふれるお言葉が贈られました。最後に吉本先生から、2020年度、再び教壇に立たれるというご報告と、今後も集いの機会をというリクエストをいただきパーティは終了。2次会のカラオケでは吉本先生が歌う「涙のリクエスト」に合わせ、全員で腕を回し、当時と変わらない先生の歌声にパワーをいただきました。

音居 あや(43期)

＊ 馬場伸也先生の思い出を語る会 ＊

馬場伸也先生は在職中の1989年10月6日に52歳の若さで急逝されました。ご逝去から30年経ち、東京時代と大阪時代のゼミ生が一堂に集まり、ご家族と共に、2019年12月22日にホテルグランヴィア大阪で「馬場伸也先生の思い出を語る会」を開きました。

馬場先生は米国のバックネル大学やカナダのマギル大学で教鞭をとられ、津田塾大学を経て、1982年に大阪大学にいられました。阪大法学部のゼミ生からは、馬場先生の「国際行動論」の授業で感銘を受け、馬場ゼミを選択したという声

が多く聞かれました。ゼミ生の進路は様々ですが、どのような職種であれ、「馬場スピリット(①弱者の目で世界を見る②現場を大切に③人格を磨く)」を胸に働いています。特に馬場ゼミは8名の国連職員を輩出しました。8年足らずの阪大時代に与えた学生たちへの影響の大きさと「日本人をもっと国連へ」という先生の意気込みが分かる数字です。

大学院の教え子の中で大学教員、国連職員、JICA専門家により、この30年に合わせて『改訂版 国際社会を学ぶ』(晃洋書房。初版は2012年)を2019年11月に出版しました。若い学生たちに、これからも「馬場スピリット」を届けて行きます。

戸田 真紀子・中川 英樹(34期)





同期会の開催報告



●● 昭和29年入学同期会 ●●

昭和29年入学の同期会は今年も2月18日(火)ホテルグランヴィア大阪で開催、新型コロナ肺炎騒ぎに加え当日は今年一番の冷え込みもあり、急遽2名が欠席となりましたが、それでも84歳を超えた同期生13名が集まり、昔話に花を咲かせました。

同期会終活の話題も出ましたが、話し合いの末2021年も2月16日(火)に同じ場所で開催することを決めて散会しました。
芳村 昭宏 (6期)



●● 昭和38年入学同期会 ●●

昭和38年入学組の同窓会は「待兼会」と称し、ほぼ毎年東西交代主催で開いています。

昨年は、5月21～22日に真言密教の太祖空海が山頂に拓いた宗教都市・世界遺産「高野山」を訪ねました。我々も大学卒業後早や50余年、後期高齢者となったため出席者も16名と寂しくなりましたが、参加者は元気浚刺、初日は、金剛峯寺・根本大塔・金堂など主要な伽藍を拝観、その後宿坊の「普賢院」に宿泊、懇親会で久闊を叙しました。翌日は、早朝の身を斬るような冷気の下で朝の勤行に参加、その後20万ともいう墓石が立ち並ぶ2kmの参道を「奥之院」まで参詣、空海廟で頭を垂れ、甚深微妙の真言密教の一端に触れました。

齢を重ねてもなお我執に囚われ、煩惱の固まりである凡夫の我々が、自らの中にある仏心に目覚め、心安らかに余生を生きるヒントが些かでも掴めたなら、今回の同窓会も有意義であったと断言できるのですが、はてさて如何であったでしょうか？
今城 功勝 (15期)



●● 昭和44年入学同期会 ●●

前々年の兎島・倉敷、前年の福山・鞆の浦に続き本年は能勢温泉一泊の旅。摂津を中心に12名参加。翌々日石橋阪大前に変わる石橋駅を見納めし池田駅より送迎バス、温泉で一風呂浴び鶏鍋を堪能、深夜までカラオケ。翌日は加堂邸で栗拾いと秋鹿飲み放題BBQ。笹山さんの発案で外出が叶わない岐阜の井上さんに寸志を出し合い色紙と加堂家の新鮮な野菜とお米を送りました。東京でも年2回昭和44年入学の同窓会が行われています。両方出席の猛者もいます。

次回は6月13日(土)八重洲「稲田屋はなれ」にて開催予定です。
小野 雅裕 (21期)



●● 昭和47年入学同期会 ●●

令和2年2月8日、大阪大学中之島センターにおいて還暦記念を機に始めた同窓会を開催しました。今回も関西だけでなく、東京、四国など全国から24人が出席し、ロイヤルホテルの食事をとりながら、お互いの近況報告に耳を傾け、楽しい時間を過ごしました。

また同級生の若松氏による「元新聞デスクの歯ざしり」と題した最近のメディア事情と米中関係についての講演と、同じく同級生の医師!渡邊氏によるカナダ留学時に経験した2003年のSARSと今回の新型コロナウイルス感染症との比較についての情報提供を拝聴するなど、大変有意義な一日ともなりました。

閉会後の幹事会において、次回は令和3年3月13日(土)に開催すること、令和4年3月19日(土)に入試合格50年記念の会を開催することを決定しました。同級生の皆さんはぜひご出席願います。 小林 秀豪(24期)



●● 昭和50年入学同期会 ●●

1975年法学部入学同期では11月16日～17日の二日間で名古屋にて同期会を開催した。名古屋在住の深川優一郎君が現地幹事を引き受けてくれて充実した会となった。スケジュールは13時に名古屋駅集合し、名古屋市政資料館(旧大日本帝国・名古屋控訴院)を見学。昔の法廷や留置場などがそのまま残っていて大変興味深かった。その後地下鉄とリニモを乗り継いでトヨタ博物館に行った。各時代の世界の車のコレクションは見ごたえ十分だ。流石トヨタ自動車という印象である。自分達が大学生の時に免許を取ってバイトで買った車や憧れた車が所狭しと並んでいる。もっとゆっくり見たかったが宴会の時間があるので出口のところで記念写真を撮って市内へと戻る。宴会は幹事セレクトの「名古屋メシコース」だ。おなじみの八丁味噌を使った名古屋ならではの料理をいろいろ堪能した。

16日は名古屋で人気タレントのコンサートがあり、ホテルの確保でも幹事にご苦労を掛けた。17日は徳川美術館を見学。鎧兜、刀剣から美術品など徳川将軍家のコレクションを見た。名古屋駅に戻り、皆で味噌煮込みうどんの名店「山木屋」で昼食を取り、そこで解散となった。毎年のものであるが、現地幹事の素晴らしい企画で充実した同期会となった。来年は東京での開催と決まった。 野村 史郎(27期)



青雲会囲碁同好会のご案内

気楽な雰囲気です。みんな囲碁を楽しんでいます。高段の方も級位の方もいらっしゃるので、交流や棋力の向上を図ってください。

イベントでは他の同好会などとの交流対局も楽しめます。ぜひ幹事まで連絡ください。

定例会

日時:令和2年2月15日(土)、5月23日(土) 13:00~17:00

場所:日本棋院梅田囲碁サロン

大阪市北区角田町1番12号 阪急ファイブアネックスビル6F

阪神・阪急梅田駅より徒歩5分、地下鉄梅田駅、JR大阪駅より徒歩10分

席料:1,300円(日本棋院会員は1,100円)



・イベントにも奮ってご参加ください。

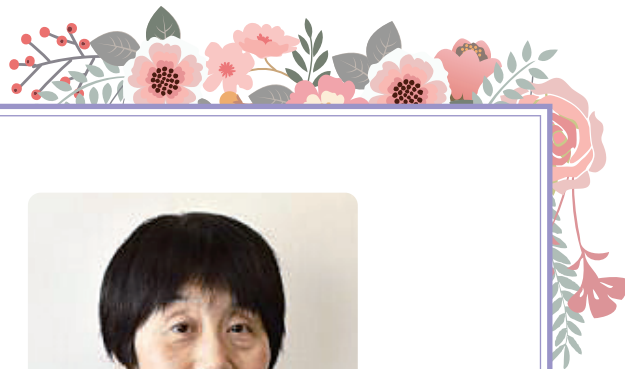
1月:新年囲碁会(全大阪大学・アルプス江坂囲碁センター)

8月:トーナメント大会(マイドームおおさか)

11月:現役大学生との交流戦(アルプス江坂囲碁センター)
(別途、参加費用をいただきます。)

連絡先

青雲会囲碁同好会幹事 銭尾 正和(ぜにおまさかず)まで TEL:080-7035-9285 E-mail:tennohikarihasubetehoshi@hotmail.co.jp



活躍する卒業生 I

「予想外の仕事人生を 振り返って」

豊中市副市長 足立 佐知子 (30期)



大学を卒業したのは昭和57年(1982年)、男女雇用機会均等法の前です。同級生の男子学生には段ボール二箱以上も企業案内が届くなか、いただいたのはわずか4社と記憶しています。就職活動で企業をまわっても、女性だけに制服があり、補助業務を担い、結婚退職も一般的な時代でした。とにかく定年まで働きたい、という思いで市役所を選択しました。仕事の内容もろくに知らずに、何をしたいかも考えずに、今思うと恥ずかしいかぎりです。

入庁して最初に配属されたのが、千里中央にある公民館でした。いわゆる「出先機関」です。本庁の仕事の流れも職員の顔もほとんど知らないまま約10年勤務し、この間に出産と子育てもしました。利用者さんとふれあいながら、自分で企画した生涯学習事業を実施する毎日。社会人になって最初に思ったのが「仕事って楽しい」ということでした。その後、長い仕事人生の中には、そうでないこともたくさんありましたが、今でも最初の鮮明な印象が残っています。

本庁に異動して数年後の1995年1月17日、阪神・淡路大震災が豊中のまちを無残な姿に変えてしまいました。日常業務はほとんどストップし、災害対応に追われる日々。自治体職員は、災害時に自宅に向かう人の流れとは逆に職場に駆けつけなければならないという自覚と覚悟を遅まきながら持つことができました。

その後自治事務系の行政らしくないセクションをまわり、2010年に児童福祉を所管する部長に就任しました。女性登用の流れの中、女性の管理職をつくらうという時代背景がありました。はじめて行政らしい仕事を担うことになります。社会保障関係経費

のこれまで扱ったことのない桁数の予算額(2桁違いました)と保育所に入れなかったために就労継続できない保護者や貧困・虐待に苦しむ子どもたちを前に、行政の役割はまちづくりも含めて「福祉」なんだと強く認識しました。

そして教育委員会や政策企画部を経験し、念願の定年退職まであと10か月というときに、副市長に就任することになりました。私には無理ではないかと真剣に悩みましたが、私自身、行政職員として女性活躍を推進する立場にあります。「できるかできないかではなく、やるかやらないか。」で、やらない選択はありませんでした。退職後は短時間の再任用職員として働く生活を想像していましたが、予定が激変しました。

これまでの職業人生を振り返ると、自分から積極的にキャリアを切り拓いていったわけではなく、時代の流れやタイミングによって、後ろから背中を思いやり押しつけて、気が付けば今のポジションにいます。息切れしそうなこともあります。働けることに感謝しなければと思います。どうせやるなら楽しまなければとも思っています。

自治体の仕事は市民の幸せのためというミッションが明確なうえ、将来のまちの姿を描いてそれを実現するべく進めていく、本当にやりがいのある仕事です。自治体職員をめざす方が増えたら嬉しいなと思います。

そして…そうです、やっぱり仕事は楽しいです!

活躍する卒業生 II

「グローバルから グローバルへの転身・挑戦」

株式会社ハートフルサンク
社長執行役員 代表取締役

森山 和哉 (44期)



この度は青雲会OBとして私にスポットをあてて頂いたこと、大変光栄に存じます。私は法学部をなんとか卒業こそしましたが、学生当時は体育会に没頭し勉強は最底辺と自負できるアカデミック劣等生でした。リーガルマインドどころか法の社会的役割・機能を何も理解できないままでした。青雲会入会も憚られるぐらいです笑。

さて、卒業後は22年の「普通じゃない」銀行員、その後は地元の堺市に戻り3年を福祉事業経営者というキャリアを過ごしています。それを振り返り、今になって法学部で良かったと痛感する話をしたいと思います(日経の「私の履歴書」のような気分になっています笑)。

就職活動では、自分の人間性(というよりキャラ)を活かせる仕事、ということで、あまり私のようなイケイケなタイプが少ないため組織で「目立てるぞ」という作戦ぐらいで東京三菱銀行(現 三菱UFJ銀行)に入行しました。勉強もしていないため金融志望等の特定理由はなく「こだわり」も無かった、これが奏功しました。入行後は若造が中小企業取引先の経営陣に深く携わり、同社の資金繰りは勿論のこと、財務戦略や業務・成長戦略など深く且つ幅広く、時には社員も知らないことを社長と飲みながら議論しつつ、内部的には様々な勉強は無論、銀行内専門部署の知見を結集し提案しながら上司を巻き込み意思決定を進めるダイナミズムに嵌りました。投資(融資)→事業→成長を社長と二人三脚で出来る仕事に(銀行に一切期待して無かった私だからこそ)物凄い面白さを感じました。大半は無難志向の銀行マンの中で、経営者の期待に応え、「自分がこの企業を成長させ、社長を男にする!」という気概で法人業務に24時間邁進しました(ドラマ半沢直樹の伊勢島ホテルもそうです笑)。この時、業務に融資、不動産、企業買収などは付き物で「法務」の感覚が重要と感じました。学生時代に齧った「リーガル感覚」が実は生きてる、と感じたことを覚えています。その後は5年目で香港支店に異動しました。2000年代初頭の中国の急速な二桁成長を支える外国投資のゲートウェイとなった資本主義・香港でトヨタ、ホンダなど

「日系」企業の中国進出といった国策投資など物凄いダイナミズムとスピードで6年間はあっという間でした。急成長の一方で中華民族の家族繋がりを重んじる文化にも感化されました。その後も本部を経て、今度はシンガポールに行き、アジア・オセアニア地域の「非日系」企業、すなわち外国企業の担当統括課長を6年やりました。この時のチームは17カ国の出身者で構成される、まさに「多国籍」でした。このマネジメントを通じ、人種・文化の多様性受容の重要性を痛感し、人生観が抜本的に変わったと思います。だれも日本の常識、仕事の進め方など知らないしやらないし、かつ、それはグローバルには意味がないことですから。

さて、シンガポールから帰国し、銀行で「やりきった」感があった中、地元で看護師からケアマネージャーに転身し介護福祉事業を起業していた母の背中を見る機会がありました。その事業が地元で愛され相応の規模になったため、母の年齢に鑑み今後の経営の話が出た時に、自分から名乗り出ました。運命だったと思います。

今は高齢・障害者・児を対象に医療も含めた総合的なサービス展開を大阪府南部で行っています。母の創業理念であった「家で過ごすのが一番」という在宅主義を継承し、通常の介護保険プランに旅行や地域の仕事などを組み合わせ、楽しく充実したシニア生活の深化を追求しています。また、海外で学んだことがすごく活かしています。単一民族で同一性に価値を求める日本にとって、今後の社会では高齢者、障害者や外国人を含め「多様性」受入の重要性や、核家族化が進んだ現代社会でこそ「家族の繋がり」の必要性を軸に社員を鼓舞しています。同時に経営者は様々な契約やそのトラブル含めた対応を日常茶飯事とします。法務知識とマインドが物凄く要求されます。卒業後、約25年経過した今、法学部でよかったと感謝する日々です。いつか、青雲会の一員にして頂いたことをこの大阪で恩返し出来る時を目指して二毛作目の人生を精進していきます。

2019年度青雲会行事等報告

月	日	曜	行事等
2019年			
4	1	月	法学部1年生オリエンテーション(於:豊中総合学館301講義室) 大学院高等司法研究科オリエンテーション(於:豊中総合学館501講義室)
	3	水	大学院法学研究科オリエンテーション(於:豊中総合学館501講義室)
	23	火	2019年度青雲会会報発行
	25	木	第1回幹事会(於:大阪大学中之島センター)
6	12	水	第2回幹事会(於:大阪大学中之島センター)
	22	土	第64回青雲塾(於:大阪大学中之島センター)
7	20	土	青雲会総会(於:太閤園)
9	11	水	第3回幹事会(於:大阪大学中之島センター)
	14	土	第65回青雲塾(於:カサシモワイナリー、柏原まち歩きツアー)
11	1	水	青雲懸賞論文募集開始(2020年1月16日締切)
	7	木	青雲キャリア支援基金運営委員会(於:大阪大学中之島センター)
	16	土	名古屋支部総会(名古屋待兼会総会 於:名古屋ローズコートホテル)

月	日	曜	行事等
11	27	水	文系学部同窓会幹事会同懇談会(於:ガーデンシティークラブ大阪)
	30	土	東京支部総会(於:二松学舎大学九段キャンパス)
12	3	火	第4回幹事会(於:ロドス)
	7	土	第66回青雲塾(於:大阪大学中之島センター)
2020年			
2	13	木	第5回幹事会(於:大阪大学中之島センター)
	15	土	第67回青雲塾(於:大阪大学中之島センター)
	20	木	若手交流会(於:大阪大学中之島センター)
3	6	金	青雲懸賞論文審査結果発表
	25	水	卒業式、青雲懸賞論文表彰式(中止) 青雲キャリアチャレンジ賞表彰式(中止) 卒業修了祝賀会(中止)

2019年度決算報告と2020年度予算(案)

(概要)

収入の部			支出の部		
項目	2019年度 決算	2020年度 予算	項目	2019年度 決算	2020年度 予算
会費収入	4,689	4,950	総会費	735	745
懇親会収入	563	640	会報費	2,211	2,600
運営賛助金		1,000	ソフト保守費	389	495
その他収入	183	161	支部助成金	200	200
			ローヤリング助成金	100	100
			一般助成金	0	200
			懸賞事業費	197	200
			司法基金援助金	300	300
			塾・部活動費	145	150
			若手交流会	0	30
			人件費	705	700
			その他経費	995	1,031
収入計	5,435	6,751	支出計	5,977	6,751
(単位:千円)					
収支差額				△ 542	0
前期繰越金				2,257	3,984
別途積立金より組み入れ				2,270	
次期繰越金				3,984	3,984

※ 本案は総会でご審議いただけます。

青雲会 役員 任期: 2019年4月1日~2021年3月31日

役職	氏名	期	担当(*:主担)
名誉会長	中山 竜一		
会長	片岡 和行	24期	
副会長	山本 茂伸	22期	・総会* ・総務*
副会長	松井 繁幸	23期	・青雲塾*
副会長	西尾 公一	25期	・組織強化(正会員)* ・財務* ・青雲塾 ・青雲懸賞論文*
副会長	松本 克己	26期	・総会* ・財務* ・キャリア支援
副会長	野村 史郎	27期	・組織強化(正会員) ・財務*
副会長	沖田 拓司	30期	・組織強化(正会員)* ・財務* ・キャリア支援
副会長	川村 雅志	31期	・組織強化(正会員) ・交流促進*
副会長	西井 秀行	36期	・組織強化(準会員)* ・キャリア支援* ・WEB管理*
副会長	菅 聡一郎	40期	・総会*
副会長	嶋津 裕介	45期	・若手交流会* ・青雲懸賞論文
副会長	堀木 由紀	46期	・懸賞論文審査* ・若手交流会
副会長	橋本 正博	60期	・組織強化(正会員・準会員) ・若手交流会 ・キャリア支援
幹事	(各期)		
	うち特に担当を委嘱する幹事		
	西畑 一哉	27期	・懸賞論文審査
	末澤 豪謙	32期	・懸賞論文審査
	石黒 陽子	49期	・青雲塾 ・情報発信機能強化
会計監査	西村 元昭	14期	
会計監査	松本 綾	40期	

事務局

事務局長	西尾 光代	30期
------	-------	-----

青雲会からのお知らせ

同期会や同窓会をしませんか!

同期会や、恩師を囲んでのゼミ同窓会などの開催に会員管理システムをお役立てください。

- 入学年度での同期会の開催
- 出身ゼミごとの同窓会の開催
- 居住地やエリアごとの同窓会の開催
- 勤務先内での同窓会の開催
- その他にも、出身校や出身都道府県ごとの同期会、同窓会の開催にもご利用頂けます。

事務局は大阪大学豊中キャンパスの法学部本館1階(正面玄関入って右手、右側)の「法高連携支援室」にあります。月、木の週2日、午前10時~午後4時(11時30分~12時30分昼休み)に在室しています。会員の皆様のご連絡をお待ちしています。

事務局までお問い合わせください。

TEL: 06-6850-5198
メール: ishibashi@seiunkai.net

青雲会事務局 西尾 光代(30期)



青雲会「会員管理システム」が新しくスタートしました

青雲会「会員管理システム」をより安全性の高い、使いやすいサイトとしてリニューアルしました。
住所、勤務先情報などの変更や年会費等の各種お支払いに、ぜひ新しい「会員専用サイト」をご利用ください。
青雲会HP (<https://www.seiunkai.net/>) のTOPページより会員専用ページへ
(※会員専用サイトのご利用には、同封の払込用紙に印字された会員ID・パスワードの入力が必要です。)



青雲会HPのTOP画面



会員サイトログインページ



会員サイトTOPページ

【クレジットカードでの各種入金】

▶ 年会費や総会参加費、運営賛助金などが、クレジットカードでお支払いいただけるようになりました。
こちらのページから該当するお支払い内容を選択し、クレジットカード決済画面へお進みください。
(※VISA MasterCard JCB AMEX DinersClub の各ブランドのクレジットカードがご利用いただけます。)



〈その他の会員専用メニュー〉

【住所・勤務先の変更】

こちらのページから、直接会員様ご自身でご住所や勤務先情報などの変更をおこなっていただけます。
メールやFAXをご利用いただく手間もはぶけ、よりスピーディーで確実に修正が完了いたします。

【ご入金状況の確認】

会員様ご自身のご入金状況をご確認いただけます。
年会費などのご入金履歴(入金内容、金額、入金日、入金方法)をこちらのページで確認することができますので、お支払いのお忘れ防止にも役立ちます。

【現住所未確認者一覧】

ご住所のわからない会員様をご紹介いただくページです。
こちらの一覧より「現住所未確認」の会員リストが表示され、「紹介情報連絡フォーム」よりお知り合いの情報を事務局へご送信いただけます。
(※ご紹介者のお名前をお知らせした上で、ご本人には直接事務局から確認をとらせていただきます。)

【事務局への依頼・連絡】

事務局へのお問い合わせやご連絡は、こちらのメール送信フォームよりお願いいたします。
(※「連絡用メールアドレス」が未登録の場合はご利用いただけません。先に「連絡用メールアドレス」のご登録をお願いいたします。)

【パスワード・メールアドレスの設定】

▶ 会員専用サイトへログインするための「パスワード」は、会員様ご自身で変更することができます。
「パスワード」の管理には、くれぐれもご注意ください。(※定期的に「パスワード」を変更することをおすすめいたします。)
★「連絡用メールアドレス」の登録を必ず
お願いいたします。



こちらのページからご登録いただいた「連絡用メールアドレス」が、事務局からの大切なお知らせや会員様からのお問い合わせ等に対する返信先のメールアドレスとなります。(システムからの自動返信メールの送信先としても登録されます。)ご登録のない場合、青雲会事務局やシステムからの返信メールが届きませんので、必ず「連絡用メールアドレス」のご登録をお願いいたします。

年会費納入のお願い(納入方法について)

青雲会の活動は、主として新規入会者の「入会金」と会員の皆様の「年会費」で成り立っています。かねてから皆様にご報告のとおり、ここ数年は会費の納入率が低迷し、財政状況が大変厳しくなっております。
ぜひとも年会費(3,000円)の納入をお願いいたします。

【年会費】の納入方法 以下、【1】～【4】のいずれかの方法で納入ください。

- 【1】同封の「払込取扱票」(年会費専用)による納入 ※郵便局またはコンビニエンスストアで利用可能(振込手数料は無料)
- 【2】「クレジットカード」での納入 ※会員専用サイトの「クレジットカードでの各種入金」ページより
- 【3】「銀行自動引き落とし」での納入 ※事前に事務局への手続きの申し出が必要で
- 【4】「銀行振込」での納入 ※振込手数料は会員様負担となります

(振込先) 三井住友信託銀行 大阪本店営業部(店番号 020)
普通 2124787 大阪大学 法学部同窓会

年会費専用払込用紙(郵便局・コンビニエンスストア併用タイプ)



【お知らせ】今年度より、年会費はコンビニエンスストアでのお支払いが可能になりました。▶

同封の払込取扱票(年会費専用)にて、コンビニエンスストアもしくは郵便局でお支払いください。
(注)コンビニエンスストアでのお取り扱い、2020年7月20日までとなっております。この期限を過ぎますとコンビニエンスストアではご使用いただけませんのでご注意ください。なお郵便局でのお支払いには取り扱い期限はございませんので、2020年7月21日以降は郵便局にてお支払いください。

青雲会運営賛助金制度の導入について

かねてから皆様にご報告のとおり、青雲会の運営資金は主として新規入会者の入会金および会員の皆様の年会費で賄われております。しかしながら、ここ数年は会費の納入率が低迷し、財政状況が大変厳しくなっております。この数年間の財政健全化策は、①幹事会開催場所の大阪大学中之島センターへの移転、②支部への運営補助金の削減、③青雲懸賞論文の賞金の見直し、④各種助成金の削減、⑤その他経費の抜本的な見直し等、主に支出の削減を中心に実施してまいりましたが、これ以上の事業の縮小は難しい状況です。

今後の会員数増加や消費税引き上げの影響等を展望すると、一層の財政面の安定化のためには、収入面の対策も必要とする段階に来ております。

昨年9月11日に開催された定例幹事会において、上記観点から討議がなされ、今年度より「任意の青雲会運営賛助金」を制度として導入することが決定しました。会員の皆様には是非趣旨をご理解の上、ご協力を賜りますようお願いいたします。

なお、今後も「会報」発送の都度、継続的に振込用紙を同封いたしますのでご利用願います。

青雲会運営賛助金ご協力のごお願い

拜啓 会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また日頃より青雲会の活動にご理解とご支援を賜りまして改めて御礼申し上げます。

お陰様で青雲会は設立六十五年を超え、会員数も一万一千人を超えました。

さて、青雲会の活動は会員の皆様の会費により支えられておりますが、ここ数年は会費の納入率が低迷し、財政状況が大変厳しくなっております。この数年間の財政健全化策は、主に支出の削減を中心としてまいりましたが、これ以上の事業の縮小は難しい状況です。

そこでこれからは、収入の増加を図って会の活動をより円滑にしていこうという観点から、現在の入会金と年会費に加え、任意の運営賛助金を制度として取り入れることを幹事会で決定いたしました。

会員の皆様には是非趣旨をご理解いただき、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

敬具

令和二年四月吉日

青雲会会員の皆様へ

青雲会会長 片岡 和行